

授業における形成的評価の活かし方 ～読解の指導を中心に～

私たち授業者は、子どものつまずきや困り感にちゃんと気づけているでしょうか。気づいたあとには、その原因を探り、授業の軌道修正をしたり、適切な支援をその子に提供したりすることができているでしょうか。

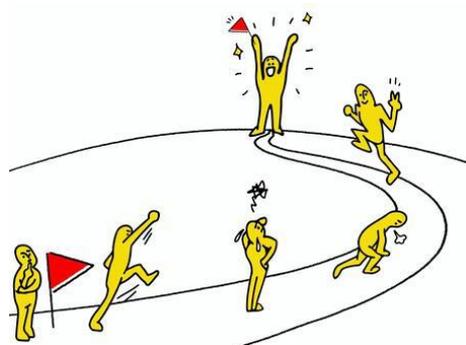
今回の研修ではニューヨークスクールサイコロジスのバーンズ亀山静子先生をお招きして、形成的評価の重要性と実践方法、そして読解につまずいている子のアセスメント方法のポイントを学びました。

講師 バーンズ 亀山 静子氏

「形成的評価とは？」

学習における評価は、「診断的評価（学習前）」「形成的評価（学習中）」「総括的評価（学習後）」の3つに大きく分かります。「形成的評価」とは、学習の途中で子どもの理解度や実態を把握し、それに応じて授業者がカリキュラムを改善したり、子どもたちへフィードバックをしたりすることを指します。形成的評価は、本学会でみなさんとともに学んでいるUDL（Universal Design for Learning）や学習指導要領においても、子どもが学習目標にたどり着くまでの道のりや、自分の現在地を把握し、一人ひとりが学習を主体的に調整できるようにするために欠かせないものであるとされています。

研修会ではグループディスカッションを行い、参加者が日頃どのような形成的評価を行っているか、そしてその目的とそこで得られた評価をどのように活用しているかを共有しました。



「形成的評価の目的と、その多様性」

形成的評価の目的は、子どもたちが学習を調整しながら進めていけるようにすることにあります。そのため、授業の感想や学習内容の言語化だけにとどまらず、子ども自身が学びを内省する機会をつくるのが重要です。例えば授業内容に関連する質問を3つ挙げてもらったり、iPad等のICT機器を使って柔軟な形で振り返りを表現できるようにしたりする等、様々な方法で子どものメタ認知を育てることが効果的です。

グループディスカッションでは、授業の振り返りがマンネリ化しているという課題が上がりましたが、バーンズ先生は上にあげた方法以外にもエグジットチケットやビーチボールを利用した振り返りなど、日本やアメリカで実際に行われている様々な形成的評価の手法を紹介してくださいました。また子どもに内省を促すだけでなく、子どもから「どんな授業が良いか」とリクエストをとって、授業者のカリキュラム改善に活用する方法もあることをご提案くださいました。



「読みに困っている子は、どんなところに困っているんだろう」

「読み」と一言でいっても、それを構成する要素は文字の解釈、語彙力、文章構成の理解、読解スキル（明確化、質問、要約、推察、関連付けなど）など多岐にわたります。私たち授業者は、子どもがどの要素でつまづいているのかを適切にアセスメントし、その子に合った支援方法を柔軟に調整する必要があります。まさに形成的評価の重要性が問われる場面です。



研修会では、読解のアセスメント方法や音声読み上げのような代替手段の活用、さらには読解スキルを意識的に使う指導の工夫について学ぶことができました。

研修会は終了予定時刻のぎりぎりまで質問がとまらない程の大盛況で、参加された先生方にとって多くの気づきと学びを得られる場となったことを感じました。形成的評価を通して子どもたちが内省とメタ認知を深めていけるよう、今後も先生方と一緒に学んでいきたいと思ひます。

ご参加頂いた皆様からの感想《一部抜粋》

本日の学習会の内容の豊かさ、そして実践に繋げられるような展開で有効な情報、様々な方略を得ることが出来ました。形成的評価について、介入が必要な場面やどのようなことを教師が提示し、促すかによって評価の形が変わることなどがよく分かりました。また、様々な具体例も見せていただき、イグジットチケットや、質問ボールなどは自分の学級でも取り入れて実践してみたいと思ひます。

大変学びの多い時間となりました。ありがとうございました。形成的評価について、やっているつもりでできていなかったことに気がつきました。どうしてこれしか書けないんだろう？と思うことがありましたか、私の視点と方法に問題があったのでした。授業作りと同じでした。また、人間の脳は文字を読めるようにできていないというお話が衝撃的でした。個人差があることが当たり前で、読みにくい生徒に対して向き合っていきたいと思ひます

現場で集団学習に参加しない児童らの頭の中でどんなつまづきがあり、できる支援が何かを探るヒントをいただきました。ありがとうございました。

バーズ先生の形成的評価についてのお話しは、自身が行っていることを整理しながら学ばせていただきました。また、海外での取組の紹介は、今後の自身の改善につながります。子供自身と如何にゴールを共有するか考えたいと改めて考えさせられた機会となりました。ありがとうございました。

次回の研修会は、

「いじめが起こった後のクラスづくり SST 演習

～グループダイナミクスの理解とファシリテーション演習～

というテーマで勉強していきます。今回は「第1部：いじめが生じるクラスのダイナミクスの理解と予防的対応のワーク演習」、「第2部：いじめが起こった後の立て直し 当事者（いじめっ子、はやし立て）への小グループワークの実践演習」の豪華二部制で行われます。対面とオンラインのハイフレックス制ですが、会場においていただくことを推奨します。ぜひ皆様のご参加を お待ちしております！



日時：2025年3月16日（日）9：00～17：00